

第 2 次計画の分野別施策の進捗状況

平成 2 9 年 8 月 1 日 (火)

1 がんの予防

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①喫煙問題対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙をやめたい人がやめることによって、喫煙率を減少させ、未成年者の喫煙をなくし、受動喫煙を防止する環境整備を行い、禁煙問題を改善すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「禁煙・完全分煙実施施設」は、2,640件（H29年6月末）。 ・普及講座は、23回実施（H28年度）。 ・たばこフリーキッズ事業は平成29年7月27、28日に実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「禁煙・完全分煙実施施設」認定事業 ・たばこからの健康影響普及講座事業 ・子どもたちによる「たばこ健康」についての研究発表を行う、たばこフリーキッズ事業の実施
②肝炎対策等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・肝炎の正しい知識の普及やウイルス検査の実施、肝炎医療体制の確保等により、肝炎の早期発見、早期治療を行い、肝がんの発症を予防すること。 ・子宮頸がん予防ワクチン接種の普及啓発により、子宮頸がんの発症を予防すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から第2次岡山県肝炎対策計画を策定し、普及啓発やウイルス検査の実施、肝炎医療体制の確保により肝炎の早期発見・早期治療に繋げている。 ・平成25年4月から定期予防接種に追加されたが、同年6月、ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛等が接種後に見られたことから、積極的な接種勧奨が中止された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域肝炎対策サポーター研修会の開催及びサポーター養成 ・肝炎一次専門医療機関及び保健所における無料肝炎ウイルス検査の実施 ・B型・C型ウイルス性肝炎の治療に要する医療費助成（肝炎治療特別促進事業） ・肝炎ウイルス検査陽性者への検査費用助成（肝炎陽性者フォローアップ事業）
③生活習慣の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関連する飲酒、身体活動等の生活習慣を改善すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩数については横ばいであるが、運動習慣のある者の割合はほとんどの世代で減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れの国33プログラムの開発と普及啓発 ・南部健康づくりセンターの運営

2 がんの早期発見

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①がん検診の受診率の向上	<ul style="list-style-type: none"> すべてのがん検診の受診率（市町村、医療保険者及び全額自己負担）実施分を含む）を、いずれも50%以上とすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 肺がんのみ50%を超えているが、他は40%台である。 市町村実施分は算定方法が変更され、20%強である。 	<ul style="list-style-type: none"> 愛育委員の個別訪問による受診勧奨 がん検診推進事業（国庫補助金）の実施等による受診率向上の取組 岡山県美容組合との協働による検診受診勧奨ポスターの掲示、保健所による出前講座の実施
②がん検診の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 市町村が行うがん検診の精検受診率を90%以上とすること。 すべての市町村で、精度管理、事業評価が実施されること。 	<ul style="list-style-type: none"> 乳がんのみ90%を超えているが、他は約70～80%である。 全ての市町村で、精度管理が実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県がん精密検診結果管理収集事業による精検結果の収集・分析 岡山県生活習慣病検診等管理指導協議会による精度管理

3 がんの診断・治療に関する医療水準の向上

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①がん診療連携拠点病院・がん診療連携推進病院の充実・強化	<ul style="list-style-type: none"> がんの診断、治療、緩和ケアについて切れ目のない医療が提供できるよう、拠点病院等や地域の医療機関、かかりつけ医の役割を明確にした体制整備を図ること。 高梁・新見保健医療圏域の県民が安心してがんの治療が受けられるよう、5年以内に推進病院を整備すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年4月に国から新たに高梁・新見医療圏、真庭医療圏に地域がん診療病院の指定を受け、全ての2次医療圏でがん診療の中核的な役割を担う病院が整備された。 	<ul style="list-style-type: none"> 国から直接補助を受ける岡山大学病院と岡山医療センターを除く5つの拠点病院と2つの地域がん診療病院に、運営費として国が定めた定額を補助

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
②放射線療法・化学療法・手術療法及びチーム医療の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・県民がより高い質での集学的治療が受けられるよう、拠点病院等に手術療法、放射線療法、化学療法の各種チーム医療体制の整備がなされること。 ・がん患者とその家族のQOL維持向上が図れるよう、外来化学療法を受ける患者が増えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等では、手術療法、放射線療法、化学療法の各種チーム医療体制が整備されている。 ・外来化学療法を受ける患者数はわずかな増加に留まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国から直接補助を受ける岡山大学病院と岡山医療センターを除く5つの拠点病院と2つの地域がん診療病院に、運営費として国が定めた定額を補助。
③がん診療ガイドラインに沿った医療の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者が質の高い治療を受けられるよう、拠点病院をはじめとするがん治療を実施している医療機関は、最新のガイドラインに準じた治療を行うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等では、最新の診療ガイドラインに関する研修を実施し、医療従事者の資質向上を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県がん患者情報提供サイトに、最新の診療ガイドラインを紹介している「日本癌治療学会」のホームページの情報を掲載し、診療ガイドラインの情報を提供している。
④がんと診断され時からの緩和ケアの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・どこに住んでいても緩和ケアが受けられるよう、緩和ケア研修を修了した医師等を増やすこと。 ・急性増悪したがん患者を受け入れられるよう、県がん診療連携拠点病院は、5年以内に緩和ケアセンターを整備すること。 ・医療用麻薬の使用でがん患者の痛みが軽減すること。 ・緩和ケアが普及するよう、県民へ啓発すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア研修会を修了した医師は確実に増えているが、緩和ケアチームの有無や介入状況など、施設間で緩和ケアの提供状況に差が生じている。 ・緩和ケアセンターについては、平成25年度に整備されている。 ・拠点病院では、公開講座を通じて、県民に対して緩和ケアに関する普及啓発を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県医師会に委託して緩和ケア研修会を開催している。 ・平成26年度に緩和ケアフォローアップ研修を実施 ・平成24～27年度に緩和ケア普及啓発事業を実施 ・平成28年度に緩和ケアに関する調査を実施

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
⑤地域における医療連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等とかかりつけ医との連携がスムーズに行えるよう、地域連携クリティカルパスの活用を進めること。 ・5大がん以外のがん患者も地域連携パスの利用がすすむようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携クリティカルパスの利用件数は、計画策定時に比べて1.3倍になっているが、引き続き活用を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療連携体制整備事業により、地域連携パスの普及を推進。
⑥在宅医療（療養）提供体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者が住み慣れた家庭や地域での療養を選択できるよう、急性増悪時における円滑な受入など在宅療養を支える機関数の増加。 ・自宅のほか老人ホーム等望んだ場所で最期を迎えることのできるがん患者とその家族の割合の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がんによる在宅死亡割合は、計画策定時に比べて3.2ポイント増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療介護多職種連携人材育成事業や訪問薬剤師管理指導を推進するための体制整備と普及啓発等事業等により、多職種連携による在宅医療提供体制を推進。
⑦がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・より質の高い医療提供ができるよう、がんに関わる医療従事者のさらなる資質向上及び認定看護師の養成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年末のがん関係認定看護師（緩和ケア、がん化学療法看護、がん性疼痛看護、乳がん看護、がん放射線療法看護）64名 	<ul style="list-style-type: none"> ・県は、岡山県看護協会が実施する地域包括ケア関係認定看護師（がん関係認定看護師を含む）等養成促進事業に必要な経費の一部を補助

4 患者・家族への支援

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①相談窓口の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援センターの周知を図り、がん患者が安心して相談できるようにすること。 ・どこの相談支援センターで相談しても、等しく質の高い、専門的な相談が行えるよう、全ての推進病院に国立がん研究センターの専門研修を受講した職員が配置されること。 ・がん患者とその家族及び身内を亡くされた方への相談支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数は計画策定時に比べて3倍以上となっているが、相談支援センターの認知度が低いため、引き続き周知を図る必要がある。 ・ピアサポーターの資質向上を図り、相談支援体制の充実を図っている。 ・グリーンケアのあり方については、引き続き検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度からピアサポータースキルアップ研修を開催 ・平成27年度にピアサポーターフォローアップ研修を開催 ・平成28年度から患者団体と相談支援センター相談員の交流会と「メンタルサポート」研修を開催 ・がん患者会への専門家派遣事業により、がん患者会が実施する研修会等へ専門家を派遣し、療養生活の不安や悩みに対して助言。 ・『「がん」の相談窓口のご紹介』パンフレットを作成し、配布
②情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する情報を必要とする人の役に立つよう、がんサポート情報の掲載情報を随時更新すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧件数は低迷しており、引き続き周知を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年12月から専門のホームページ「岡山がんサポート情報」を運営し、岡山県のがん医療や療養等に関する情報を発信している。
③患者会ネットワークの構築・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・患者団体間での交流や情報交換が図れるよう、患者団体の活動を支援すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者団体間での交流や情報交換が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者会ネットワーク会議を開催し、がん患者同士の情報交換・意見交換を実施

5 がん登録の推進

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①院内がん登録の精度向上	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等は院内がん登録により、がん診療の実態を把握し、がん診療の質の向上に努めるとともに、県の行う地域がん登録に協力することで、県のがん対策に資すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度をもって、県内がん診療連携推進病院における院内がん登録の実施体制が整備された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度にがん診療連携推進病院に対して院内がん登録の導入を支援
②地域がん登録の精度向上	<ul style="list-style-type: none"> ・DCO割合が 5.0%以下、DCN割合が 15.0%以下。 ・がん検診の精度管理や喫煙習慣について疫学研究を行い、地域がん登録データと合わせて公表し、がん予防に役立てること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DCO割合 1.6%、DCN割合 7.1%。 ・今後はがん登録データの利活用について検討する。 ・平成 28 年 1 月から地域がん登録は全国がん登録に移行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者を診察した医療機関から届出を受け、登録を行うことで、がんの罹患、受療状況、検診の受診状況、生存率に関する動向等の把握と解析評価を行い、今後のがん対策に役立てることを目的に、がん登録事業を岡山大学病院に委託して実施
③研究支援	<ul style="list-style-type: none"> ・がん研究やがん対策に取り組む個人及び団体の研究・活動への支援が有効に行われること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本対がん協会岡山県支部等との協働により、がん研究やがん対策に取り組む個人及び団体の研究・活動を支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県健康づくり財団による「対がん基金研究助成金」について、助成対象者の選考に参画するなど、がんに関する調査研究等の振興に努めている。

6 小児がん対策

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①小児がんの医療提供体制の整備	・小児がん患者とその家族が満足できる医療が提供できる医療提供体制を構築すること。	・平成25年7月に小児がん中国・四国ネットワーク会議が設置され、医療機関の連携を図っているが、十分とは言えない。	・小児がん拠点病院の広島大学病院が開催する「小児がん中国・四国ネットワーク会議」に参加し情報を収集。
②小児がんに関する相談支援・連携体制の構築	・小児がん患者とその家族が悩みなどについて気軽に相談でき、また必要な情報を得られるよう、計画期間中に相談体制等その整備に取り組むこと。	・小児がん患者やその家族にとって、相談する場やセカンドオピニオンへの対応は不足している。	・平成26年度に岡山大学病院に委託して小児がんの患者と家族に関する実態調査を実施し、調査結果を分析

7 がんの教育・普及啓発

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①学校におけるがんの教育の充実	・がんの予防、早期発見が進むよう、児童、生徒等へのがんの教育のあり方について検討すること。	・医療関係者やがん患者会の方などによる外部講師リストを作成し、希望する学校へ講師を派遣する体制を構築。	・平成26～28年度に文科省のモデル事業を実施。(中学校:6校、高等学校:5校) ・外部講師リストの作成
②がんを正しく理解するための普及啓発	・がんの予防、早期発見・早期治療を進め、がんへの誤解がなくなるよう、より多くのがん患者とその家族、県民へ正しいがんの知識が広まること。	・出前講座や街頭啓発、講演会等により、がんに関する普及啓発を実施。	・乳がん・子宮頸がん検診の必要性等について、県民の理解を広めるために出前講座を各保健所で実施(再掲) ・平成25年度から経済団体ごとになんに関する研修会を開催。 (H25:4回 H26:5回 H27:3回 H28:6回)

8 がんになっても安心して暮らせる社会に向けて

分野別施策	個別目標	現状	主な県の取組
①治療と職業生活を支援するための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者が治療を受けながら働くことができる職場づくりの支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済団体に対して、医師、社労士などによる研修会を開催。 ・労働局が設置した「地域両立支援推進チーム」に県も参画し、関係機関と連携して、両立支援にかかる取組を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度から経済団体ごとにごがんに関する研修会を開催（再掲） ・岡山労働局が設置した「岡山県地域両立支援推進チーム」へ参画。
②がん患者とその家族を社会全体で支える仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者とその家族を社会全体で支える仕組みの構築のために使用される、寄付制度の創設等。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付制度の創設はできてない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付制度のあり方について検討。